

株式会社 松屋 2020年11月上報告

1. 店舗別 売上高概況 (単位: %)

	売上高	入店客数
① 銀座本店	-26.3	-36.6
② 銀座店	-28.6	-40.4
③ 浅草店	2.8	-30.7

① 銀座本店 : 「銀座本店」の数値は「銀座店」と「浅草店」両店計の売上高対前年増減率を表記いたしております。
 ② 銀座店 : 「銀座店」のみの売上高対前年増減率を表記いたしております。
 ③ 浅草店 : 「浅草店」のみの売上高対前年増減率を表記いたしております。

2. 売上高対前年増減率推移 (単位: %)

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
銀座本店	-1.3	1.8	-31.5	-40.3	-91.3	-91.9	-35.8	-38.5	-35.6	-36.6	-12.6	-26.3
松屋銀座	-1.5	2.0	-32.4	-40.7	-91.4	-91.3	-37.2	-40.0	-36.7	-37.9	-13.2	-28.6
松屋浅草	1.1	-2.0	-15.3	-34.2	-88.4	-99.7	-18.3	-17.3	-18.9	-13.0	-3.7	2.8

3. 店舗別商況

銀座店	11月の銀座店は、Go Toトラベル等の各種施策で銀座エリアへの来街者が増加する中、引き続き、海外ラグジュアリーブランドへの強いニーズが全体を牽引し、免税を除く国内のお客様のその売上高は前年に対して4割増の伸びを示しました。また、前月同様、「イエナカ消費」「巣ごもり需要」を反映したリビング関連等の好調に加え、高価格帯の「おせち」の承りは二桁増で進捗、さらには、歳暮ギフトも「自家需要」として購買される動向が加わり前年に対して2割増となる等、コロナ禍を反映したカテゴリーが伸びを示す好材料もありました。しかしながら、婦人・紳士ともに衣料品が苦戦、加えて、インバウンド売上がほぼ消滅したことで、売上高は前年に対して28.6%減となりました。
浅草店	11月の浅草店は、主力となる食品がやや苦戦する中、化粧品の特注等の売上が強く牽引し、売上高は前年を上回りました。

4. 商品別売上高対前年増減率 (単位: %)

	銀座本店	松屋銀座
紳士服・洋品	-30.3	-30.3
婦人服・洋品	-30.3	-30.7
子供服・洋品	-42.6	-42.6
呉服寝具他	-71.6	-72.5
衣料品計	-37.1	-37.6
身廻り品	-30.0	-29.9
雑貨	-24.8	-35.5
家具	24.8	25.3
家電	-10.7	-11.0
家庭用品	-27.6	-27.6
家庭用品計	-1.7	-1.7
食料品	-19.7	-20.7
食堂・喫茶	-36.2	-37.3
サービス、その他	55.7	59.4
合計	-26.3	-28.6

※「2020年12月上速報」は、2021/1/4(月)15時の開示を予定しております。

お問い合わせ先 株式会社 松屋 総務部 コーポレートコミュニケーション課
 TEL(03)3248-8311 / FAX(03)5550-9639